

普及活動情勢報告（平成30年4月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

産地と市場の状況は？ ～ユリ目慣らし会～



生産者と市場との状況報告

4月5日に高知市長浜でユリの目慣らし会を開催した。生産者がそれぞれの切り花の状態を確認するとともに、市場関係者らと今年の市況の振り返りや今後予想される動き等の報告を行いました。

普及所からは、昨年度から実施している炭酸ガス試験において、炭酸ガス施用により蕾が大きく、茎も硬くなる等の結果を報告しました。参加者からは「施用区は根の量が多く、品質も良い印象。」との評価を得ることができました。

普及所では、今後もより効果的な炭酸ガス施用技術を検討するとともに、生産者の所得向上を目指して取り組んでいきます。

ユズ受託作業組織「ユズバトン隊」がユズをせん定しました。



3月26日に土佐山地区でユズ作業受託組織「ユズバトン隊」に生産者6名が参加しました。「ユズバトン隊」とは、労働力確保対策の一貫として、受託組織を編成し、放任化しそうな園地を作業しやすい高さまで、切り下げてせん定するものです。今回は希望のあった2ほ場をモデル園として試行するとともに、今後の作業受委託のために、参加者から作業料金などを聞き取り調査しました。

普及所は、高齢化がすすみ労働力が低下している柚子生産組合に対し、労働力確保対策として共同防除やユズバトン隊の運営を支援していきます。

梅ノ木ファームの法人登記を支援しました。



4月11日に鏡梅ノ木地区で梅ノ木ファーム法人化決起会の12回目を開催し、生産者7名が参加しました。決起会では、農事組合法人の設立登記に必要な書類の最終チェックを行い、来月5月18日の設立総会の打合せをしました。また、法人がスムーズにスタートし、発展できるように、事業計画の改善や新規事業の検討も行いました。会では、労災保険などの質問も出されました。

普及所は、集落営農塾なども開催して専門家のアドバイスももらいながら、今後の農事組合法人梅ノ木ファームを支援していきます。

炭酸ガス施用、新ショウガへの効果は？



4月6日に、JA 高知春野管内の炭酸ガス施用ハウスで、普及所が新ショウガの掘り取り調査を行いました。

今作は、前作まで調査していたハウスとは違う条件下で炭酸ガスの調査をしました。今年の厳寒期は例年よりも厳しい寒さとなったため、厳寒期の収量増を狙う環境制御技術の実力が試されています。

今後は対照ハウスについても調査し、炭酸ガス施用が果菜類と同じように根菜類でも収量増に繋がるのか、効果を検討します。

「よさ恋美人」の実証ほを設置しました！



4月3日、高知市五台山にて水稻の実証試験を開始しました。今年は、新品種「よさ恋美人」の安定生産技術を確認するため、肥料、栽植密度、早進化栽培の適性等を検討します。また、4月12日には奨励品種決定試験の現地実証ほを設置し、JA 高知市青壮年部と協力して手作業による田植えを行いました。今後は1ヶ月毎に生育調査を行い、稲作部会等で経過を報告をしていくことになっています。

高知農業改良普及所では、今後もよさ恋美人の普及と需要に応じた米産地を推進していきます。

キュウリの環境制御の現地検討会の開催



4月20日に生産者11名の参加の下、キュウリの環境制御の現地検討会を行いました。普及所は、炭酸ガス施用の実証ほの中間報告（3月末20t/10a）を行いました。参加者からは、「5月の炭酸ガス施用方法は」「炭酸ガス施用に適する品種は」などの質問がありました。また、「4月以降、きゅうりの価格が安いので、厳寒期が勝負」という声がありました。

普及所は、JAと連携し、さらなる炭酸ガス施用効果を出すため、環境制御の勉強会、巡回指導を継続して行います。